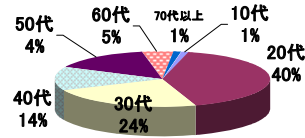
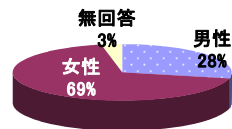


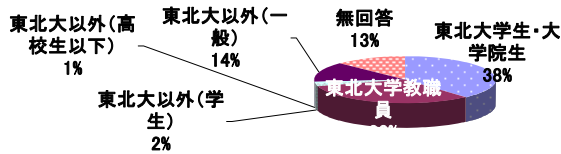
第7回東北大学男女共同参画シンポジウムでのアンケート集計結果

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考とするため、内容等に関してアンケートで伺った。参加者約160名のうち、102名の方から回答をいただいた。

Q1 あなたの性別と年齢をお教えてください。

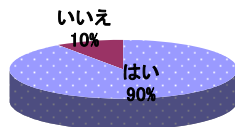


Q2 ご職業(もしよろしければ、会社名、職名も)をお教えてください

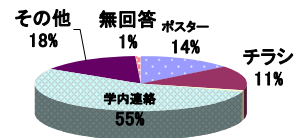


東北大学以外(アンケート記載分):
仙台市職員労働組合、仙台市男女共同参画財団、岩沼市役所、高校教員、公務員、会社員、岩手大学、東海大学、富山大学、大学教員

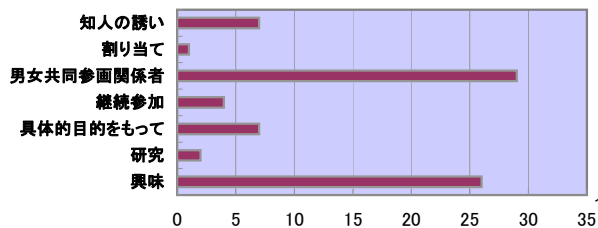
Q3 これまでに男女共同参画について何かご存知でしたか。



Q4 このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。

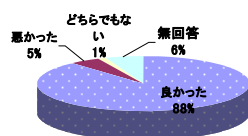


Q5 このシンポジウムに参加された動機は何ですか。(有効回答のみ)

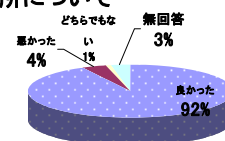


具体的目的の内訳:
学生への情報提供に役立てるため/大学での男女共同参画はどのように推進されているのか知るため/自分が所属する大学に男女共同参画推進室を作る準備をしているので、そのための資料と現状把握のため/他大学の取組を知るため/現状と問題点の認識のため

Q6 開催

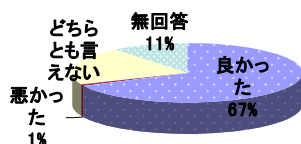


Q7 開催場所について

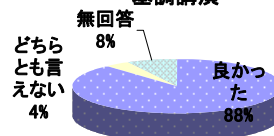


Q8 シンポジウムの内容について

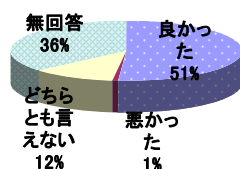
受賞講演



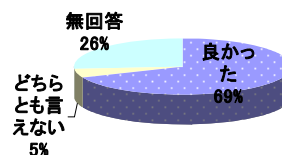
基調講演



パネルディスカッション



全体として



Q9 内容についての感想(抜粋)

- ※ ノルウェーの取組は、男女平等であるのにさらに平等を目指している。日本もまねていい。
- ※ 基調講演はレジュメがあると良かった。現状報告の時間は短すぎて発表者が大変そう。
- ※ 沢柳賞の報告がもう少し詳しく聞きたかったです。
- ※ 男女共同参画の進んだ国の話を聞く機会を得られたのは良かった。
- ※ ノルウェーの男女共同参画に関するレベルの高さがわかってよかった。
- ※ 日本よりはるかに男女共同参画が進んでいるノルウェーでもまだ課題が多いのに、日本はどうなるんだろうと思いました。
- ※ はじめて全国的に展開する男女共同参画への取組を行っている数多くの大学の話を総合的に理解することができた。
- ※ ノルウェーの情報は大変刺激になりました。
- ※ 橋本氏の講演内容がわかりやすく、良かったです。
- ※ ノルウェーの革新的取組が日本においては可能であるか疑問。実現できたら素晴らしいと思う。少しずつ推進していく啓発を図る日本の社会改革を是非、推進すべきである。
- ※ ノルウェーの現状はだいたいわかっていますので、その具体的取組の中での問題的や解決をどう行ったとか、ジェンダーギャップの日本の比較などを聞きたかったです。
- ※ 難しくよくわからなかった。全体的に早口で何が言いたいのか伝わらないです。もう少し時間を延ばしたらどうですか。
- ※ 内容ではないが、若い男性の参加者が少ないことが気になりました。
- ※ 各セクションが東北大学らしい特色が出ていました。沢柳賞という独自の制度の利点を実感できました。ノルウェー大使の講演は大変特色ある内容でした。第3部ももう少し時間がほしいところでした。もう少し出席者数を絞ったほうがよかったと思います。
- ※ そのような場として設定したのでしょうか、大学の内部事情についての話が多く、多少の偏りが感じられた。
- ※ 沢柳賞の結果報告が大変面白かった。とても系統立っていて、自分自身も当てはまることを考えながら聴いていた。学部生のうちに聴きたいお話だった。ノルウェーのお話で、トップダウンで改革を進めてきたというのは意外に感じる場所だった。その点では、日本も始めれば受け入れる国民性ではないかと思うので、始めることが重要だと思う。男女比が均等になることが、GDPも押し上げるというのは興味深かった。
- ※ SAとけやき保育園の子ども達、保護者の方と関わる機会が持てればと思いました。
- ※ 男女共同参画に関しては、各大学で様々な環境づくりがなされていると感じた女性のリーダーを増やしていくためには、出産、育児といったハードルを乗り越えていくとともに、周囲の理解が欠かせないと思います。意識改革は時間がかかるとは思いますが、粘り強くやっていく必要があると感じました。また、橋本先生のご講演は大変興味深かったです。
- ※ 一般公開をする必要はあまりないのではないかなと思いました。
- ※ 東村先生の「男女共同参画という言葉が早く死語になればいい」という言葉に共感しました。講演者の姿勢にやる気をいただきました。
- ※ お茶の水大や名古屋大の「成果+女性」という点に非常に好感を持ちました。すべてにおいて、成果主義は必要だと思います。援助に甘えるのではなく、活用するという意識が重要だと思います。
- ※ 東北大学以外の大学での女性研究者支援のための取組の現状と課題について知ることができ、意識改革と継続することの重要性と難しさを感じました。
- ※ 第4回沢柳賞を受賞された橋本さんの講演が最も印象的でした。お話の中でも特に、調査により女子大学院生をタイプ分けしたその結果に、今までにはない感動を受けました。なぜかといえば、私自身が「充足→離脱志向」の人間だからです。自分は研究者に向いていないと大学院進学後に強く感じるようになりました。しかし、橋本さんの研究では、各タイプへの対応策も示してくださっていて、私も研究室を変えていたら研究を楽しみと感じ、研究者を目指したのかもしれないと思いました。現在の女性研究者支援策は、「研究職志向」の女性のみを支援する策である、との分析に深く同意しました。もしも本当に根底から女性研究者を増やそうというのであれば、「研究職志向」ではない女子学生への多様な支援策も打ち出していくべきなのではないかと思えます。橋本さんの研究が今後活かされることを心から願っています。そして、いつもこのようなシンポジウムで思いますが、パネルディスカッションの時間や人数をもう少し調整したらいいのではないのでしょうか。
- ※ ノルウェーの様々な男女平等における取組や制度について知ることができ、大変勉強になった。また、第4回沢柳賞の講演で、女子院生を志向と研究室のタイプによって分けるという研究はとても興味深かった。
- ※ ノルウェー大使の講演は大変有用であった。橋本准教授の成果報告も良かったが、男性との比較ではどうなるだろう。
- ※ 大変勇気をもらいました。
- ※ 大学の環境の特殊性についての意義(自覚)がやや少ないのではと感じた。様々な発言の中で、大学の内輪の了解事項が暗示されるなど、公開の催物については、その点にも検討していただくとよりわかりやすいのでは。
- ※ ノルウェーの利害関係者の捉え方が広く、大変素晴らしいと思った。ポジティブ・アクション、クォータ制の取組が日本でも必要と感じた。
- ※ 基調講演は資料が欲しかった。

Q10 男女共同参画に関連したシンポジウムで、希望の企画(抜粋)

- ※ 無給残業の防止策について(あまり関係ないかもしれませんが・・・)。行政関係者を招く。
- ※ 保育に関する情報共有のためのシンポジウム
- ※ 各国の現状についてのパネルディスカッション
- ※ バックラッシュへの対応について。首長に男女共同参画を理解させる方法。
- ※ 女性の視点から職場や研究上の知恵を教える企画があったらいいなと思っています。
- ※ 実際の現場、つまり生活の中で男女共同参画を試みている生の過程の話などがあれば嬉しいです。
- ※ ポジティブ・アクションへの実践的な取組を検討していただきたいと思います。
- ※ 特にシンポジウムという手法ではないのですが、大学の各部の専門的な研究を活かし、それを融合した形での、男女共同参画社会実現のための効果的な意識改革の手法を、研究者集団の結論として提示して欲しい。
- ※ もっといろいろな大学の取組を聞きたい。
- ※ 反対意見を持っている方(教授等)の意見を聞く機会も必要かと思った。
- ※ 限られた時間内での進行は大変かと思いますが、時間をもう少しゆとりとって、丁寧な内容としていただきたいなと思いました。
- ※ 研究者の奥さんを持つ男性側からの視点の講演を聴いてみたい。
- ※ 学生と教員のことはわかったのですが、職員をどう巻き込んでいくのか知りたいです。
- ※ 学童保育の話を知りたいです。小学生～高校生の子どもを持つ女性研究者は子どもと研究生活をどうやって両立してきたのか。
- ※ サイエンス・エンジェルが強調されるが、逆に男性の学生が極端に少ない研究分野、大学(家政学関連など)のケースについての現状と課題への取組についての報告を聞いてみたい。
- ※ 独身女性研究者、職員をどう考えているか。女性研究者を推進してくださるのは大変ありがたく思います。しかし、独身者はこの問題からはおいていかれているように感じます。
- ※ 政府の取組など、詳しく知りたい。
- ※ 若い男子の学生も参加すればいいと思います。
- ※ 院生と大学教員(教授、助教など)の間にいるポストドクや技術職員の方々のお話を直接聞ける機会があればよいと思う。
- ※ 学生側の意見(積極的、消極的、批判的なもの)を中心とした企画が必要ではないか。
- ※ トップマネジメント層の教官が、女性の研究者支援について具体的にどのように考え、何を行動で示しているのか知りうるシンポジウムが企画されたら素晴らしいと思う。
- ※ 北欧の男女共同参画政策で、日本がコピーできる点、できない点。

Q10 東北大学における男女共同参画推進、または学問・教育におけるジェンダー問題についての意見(抜粋)

- ※ これまでもよくやっているので、今後も頑張ってください。
- ※ 部局として、もっと女性を採用したいと考えている。
- ※ あらゆる分野での女性進出を歓迎します。日本人男性は働きすぎです。むしろ男性が家事や育児をすることを認めるような社会観が早く根付くことを祈ります。
- ※ この方向で一層進まれることを願っております。
- ※ 本日のノルウェー大使の基調講演ですべての職種について平等を目指す発言があったが、東北大においても、教員以外の職においての取組が欲しい。男女共同参画推進の委員に技術職員、事務職員も不可欠だと思う。
- ※ 学内全体の意識の共有をしていくことが重要であるが、具体的な方策がなかなか見えてこない。自身はSA活動を通して、研究者としての生き方が自分にとっての将来展望の一つにはなった。大学の取組をもっと学生に周知させ、活動に参加することで現状に変化をもたらせると思う。
- ※ 各部局のさらなる理解が今後も必要であると考えます。
- ※ 恵まれた環境で保育を受けられる幼児は幸せだと思う。本物に触れる保育は最高です。このような教育をすべての幼児が受けるべきである。この面での格差を感じる(公立、民間保育所において)。
- ※ 大学内だけでなく、地域にも男女共同参画を広めて欲しいです。大学の職員の分析が大方のようですが、学生への教育とか、その辺を知りたかったです。
- ※ 男性のみのグループに対して男女共同参画に関する意識教育のようなものがあつたらいいと思います。
- ※ 研究大学として、規模の大きさや人的資源の豊富さをさらに活用して、特にこの分野の先行大学としてのリーダーシップを今後ともっていただきたいと思っています。
- ※ 女性研究者育成支援については、理系のみが取り上げられているようですが、文系女性もポストドク以降の状況は同じようなものです。高学歴ワーキングプアの文系女性が二重のサイレント・マイノリティになってしまうことはないのでしょうか？

- ※ 米永先生がおっしゃっていた「研究者だけでなく教育者を育てる大学になる」というのは東北大の重要な課題と感じている。そういうスタンスになると、女子学生、教員を含めて増えると思う。
- ※ 東北大学は男女共同参画に関して進んでいると思うが、あまり教員に浸透していないのではないと思う。
- ※ 良いシンポジウムを開催しても、元から意識の高い先生方しか聞かないのはとてももったいないと思う。多くの先生に参加して欲しい。
- ※ 制度は充実してきたと思いますが、まだ周知不足ではないかと思えます。必要になってから知るのではなく、学部生のときから知っていれば、進路選択の際、違うのではないかと思えます。企業で女性への支援をアピールしているように、大学、大学院受験生や他大学の教職員へもアピールする必要があるかと思えます。コメントにもあったように、教授などの理解もまだまだだと感じます。
- ※ サイエンス・エンジェルから育児・介護支援まで、幅広く進めていることに感心しました。ますます支援活動が発展されていくことを願っています。
- ※ 研究室のメールで教授から、今回のシンポジウムについて案内をいただきましたが、メールで知らされたのが女子学生である私のみでありました。この点で、東北大学の教員の方々の間でも未だ、男女共同参画推進の動きへの意識改革はなされていないように感じました。
- ※ ポスドク職における女性参画支援をお願いしたい。
- ※ 本学には見えない壁(しかも名前まである)がいっぱいです。今日はそれらと戦う勇気をもらいました。
- ※ 法人化以後、外部資金の獲得をはじめ、大学間競争、研究競争がますます激しくなっていると思う。このような競争社会が、日本人女性にとってやはり少し不利になるのではないのでしょうか(決して女性蔑視のつもりではありませんが)。ある程度の競争は必要であるが、少し以上ではないかとも思えます。個別研究をより大切に支援する制度にシフトすべきである(グループ研究、大型プロジェクト等への弊害があると思う)。
- ※ このようなシンポジウム開催の意義は深い。仙台男女共同参画財団においても、女性の理系(大学だけでなく技術系職業)分野への進出に関する啓発に関する取組ができないか考えている。U7に関するマスコミ報道がなく、はじめて聞いたことが残念。
- ※ インフラ整備の重要性を感じた。教員採用については、現在の評価システムを見直すべきである。
- ※ 女性研究者が働きやすいように多くの先生方がご尽力くださっていることがわかりました。まだ問題は多いようですが、少しずつ変わっていくような希望を感じます。研究者になることを諦めたくないと思います。
- ※ 女性のトップスターを作るということが必要だと思います。女性の増加に関してですが、東北大学としては、全体的な強いアクションが必要。ただし、理工系では、研究者レベルを下げずに実行することは容易ではない。
- ※ 理系だけでなく、文系(特に後期博士課程)についてももっと考慮すべきだと思う。
- ※ 病院職員は別の枠組みの中に入っていると思います。医師は教官、他の医療者はそれ以外という扱いは、この参画推進参加の妨げの一つになっていると思われます。
- ※ 教員の女性比率を増加させなければならない現状と、現在の女性への支援については、大変ありがたいと思っております。一方で、女性研究者材用において、男性応募者との間で女性応募者優先になってしまうのではないかという逆差別的な意見が周囲の男性からよく聞かれます。この点については女性側として、完全に「成果での選択」を行って欲しいと考えています。女性であっても、実力がなければ教員になる資格はありません。という点を、女子学生も含め、さらに注意を持って研究を行うような推進を行って欲しいです。
- ※ 今後も引き続き男女共同参画推進が意識的にだけでなく浸透するよう期待しています。
- ※ 女性だけでなく、男性の研究も支援。
- ※ 男女共同参画に対する現役女子学生(学部、院生を含む)の認知度が低い。女子学生を対象にしたシンポジウムなどを企画して欲しい。
- ※ 男女に関係なく、夕方5時過ぎに帰宅できる研究体制を作る必要があるのだが・・・
- ※ シンポジウムに出ると勇気づけられますが、職場ではまだまだ不安を感じます。
- ※ 板東先生から、東北大は北大と並んで男女共同参画推進や女性研究者モデル育成事業がよく進んでいると聞いておりました。今日のシンポジウムに参加して、大変よかったと思います。
- ※ 女子学生にとってロールモデルやメンターとなる指導者の存在はとて重要だと思います。教職員を対象としたワークショップやトレーニングをしてみてもどうでしょうか。